

5 地域福祉

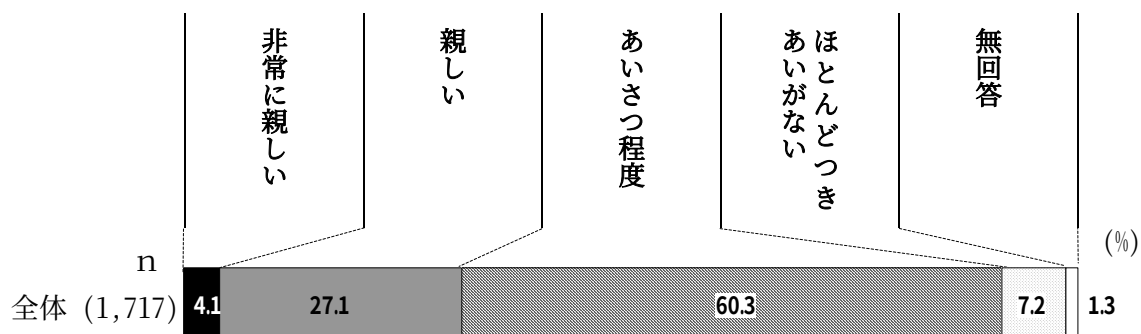
(1) 地域での支え合い

5-1 近所の人との付き合いの程度

◇《親しい》は3割強。一方、「あいさつ程度」が6割を超え多数

問29 あなたは、ふだん近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。(○は1つだけ)

＜図表5-1＞近所の人との付き合いの程度

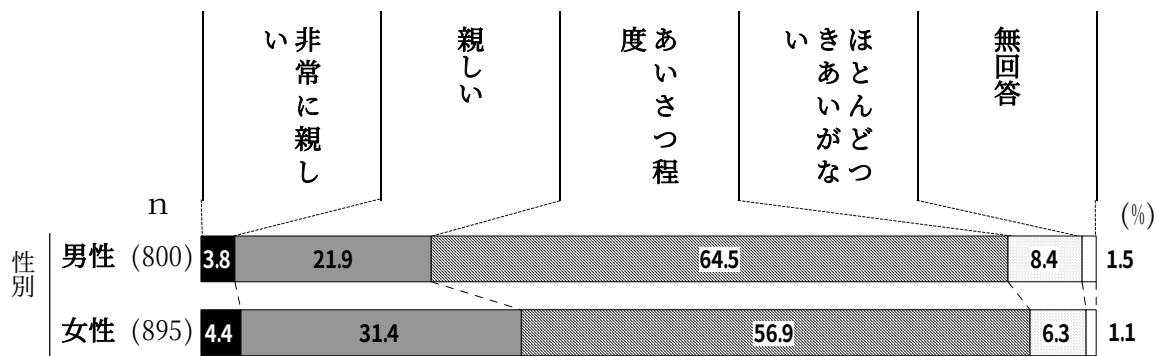


近所の人との付き合いの程度は、「非常に親しい」(4.1%)が少数にとどまるものの、「親しい」(27.1%)が約3割で、これらを合算すると《親しい》(31.2%)は3割強となる。しかしながら、「あいさつ程度」(60.3%)が6割を超え多数を占める。また、「ほとんどつきあいがない」(7.2%)との回答も少数ながらある。(図表5-1)

【性別】

《親しい》は女性の方が男性よりも10ポイント高くなっている。逆に、「あいさつ程度」は男性の方が8ポイント高率である。(図表5-2)

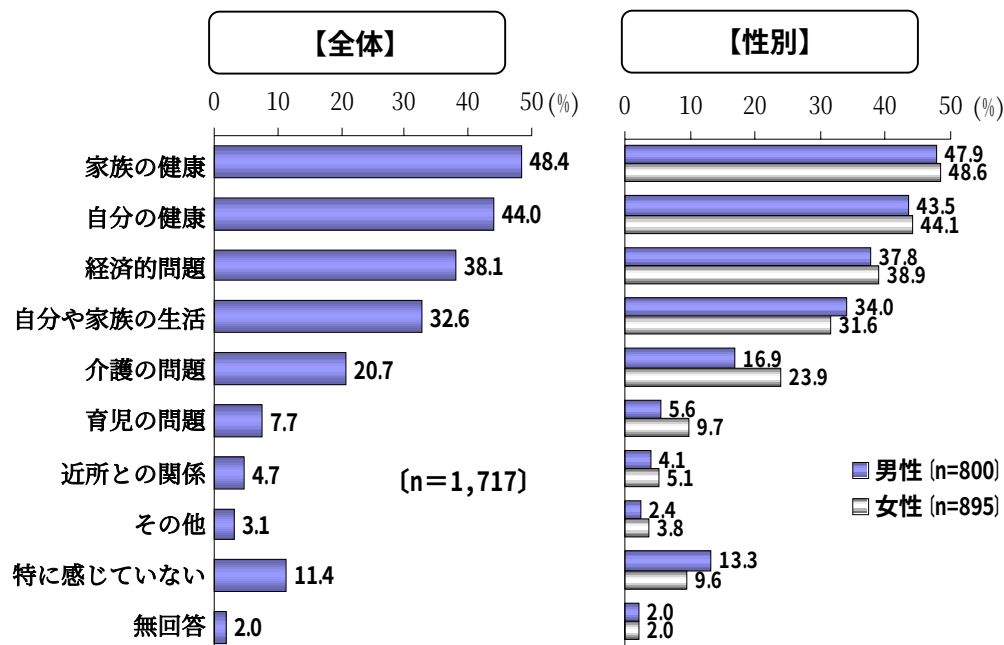
＜図表5-2＞性別



◇「家族の健康」が最も多くほぼ半数。続く「自分の健康」も4割台

問30 あなたは、ふだんどのような悩みや不安を感じていますか。(○は3つまで)

＜図表5-3＞悩みや不安の有無（複数回答）



悩みや不安を聞いたところ、「家族の健康」(48.4%)が半数に近く最も高くなっており、次いで、「自分の健康」(44.0%)も4割台で続く。このほか、「経済的問題」(38.1%)が約4割、「自分や家族の生活」(32.6%)がほぼ3人に1人、「介護の問題」(20.7%)が2割を超える。なお、「特に感じていない」(11.4%)が1割強いる。

【性別】

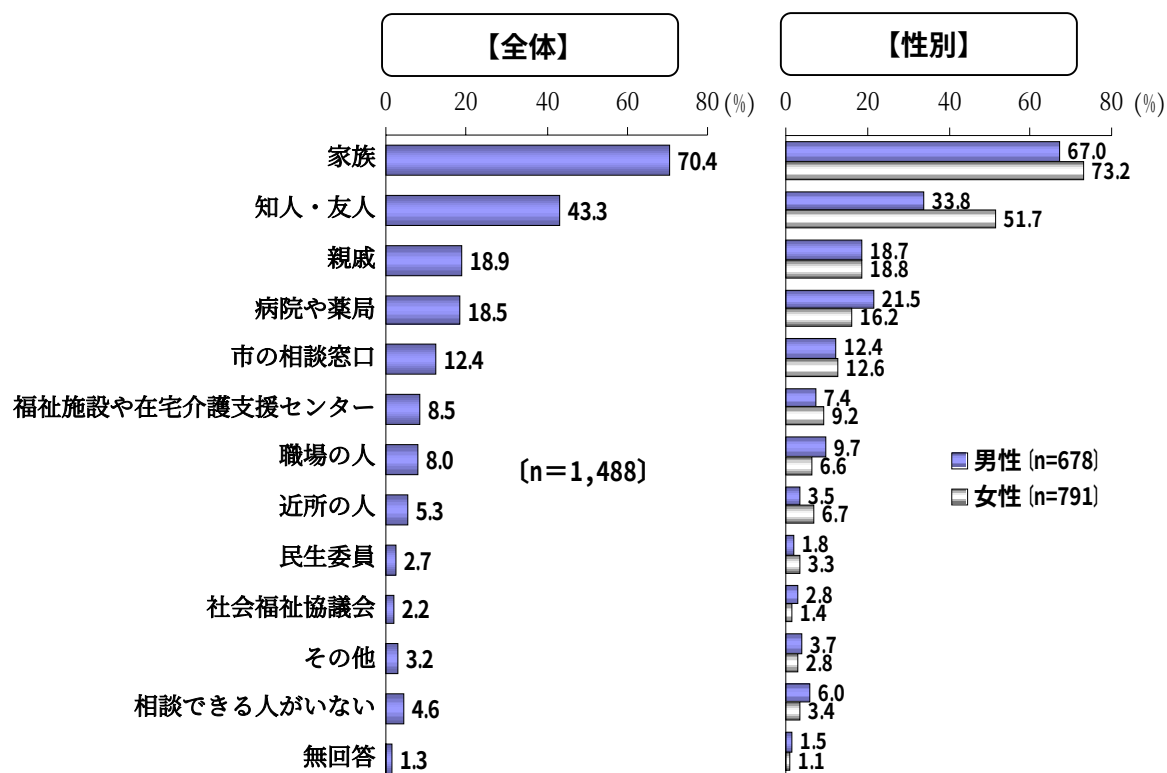
大きな差がみられるのは、「介護の問題」で女性の方が男性よりも7ポイント高くなっている。(図表5-3)

◇「家族」が7割を超え突出

(問30で、「1」から「8」とお答えの方に)

問30-1 あなたは、悩みや不安について誰に相談したいと思いますか。(○は3つまで)

<図表5-4> 悩みや不安について相談したい相手 (複数回答)



問30で、何らかの悩みや不安があると回答した人に、その相談したい相手を聞いた。その結果、「家族」(70.4%)が7割を超え突出している。続く、「知人・友人」(43.3%)は4割台半ばに近い。このほか、「親戚」(18.9%)と「病院や薬局」(18.5%)が約2割、「市の相談窓口」(12.4%)と「福祉施設や在宅介護支援センター」(8.5%)、「職場の人」(8.0%)が1割前後である。なお、「相談できる人がいない」(4.6%)との回答も少数ながらある。

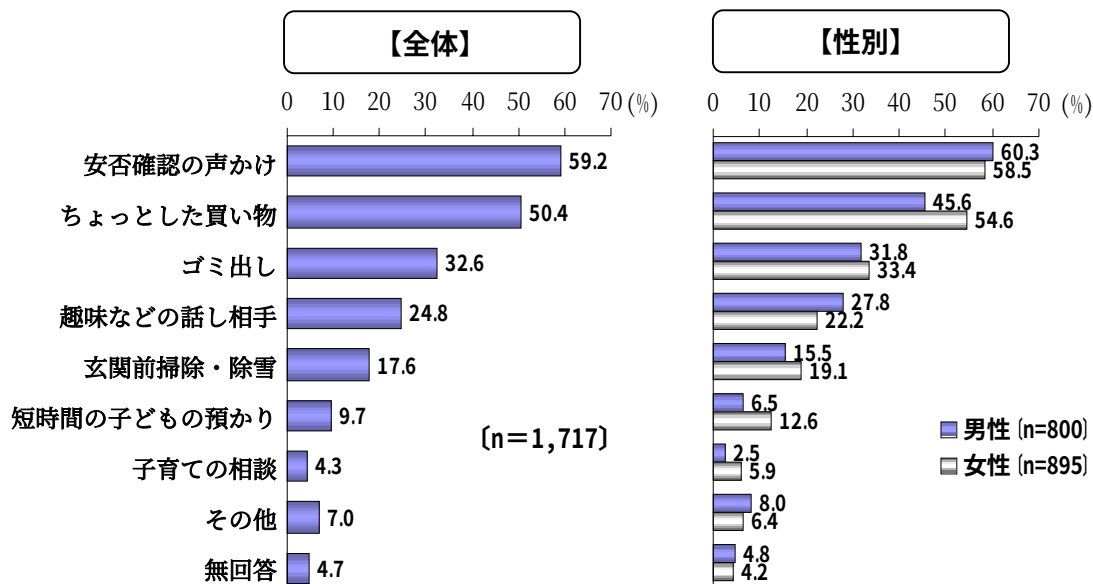
【性別】

最も差が大きいのは、「知人・友人」で女性の方が男性よりも18ポイント高く、「家族」でも女性は6ポイント上回る。逆に、男性の方が高くなっているのは、「病院や薬局」で5ポイント差がある。(図表5-4)

◇「安否確認の声かけ」が6割弱で最も高く、「ちょっとした買い物」も半数を超える

問31 あなたが、高齢や病気や事故などで日常生活が不自由になったとき、地域で何をしてほしいですか。(○は3つまで)

<図表5-5> 日常生活が不自由になった際に地域に望むこと (複数回答)



日常生活が不自由になった際に地域に望むこととしては、「安否確認の声かけ」(59.2%)が6割弱で最も高く、「ちょっとした買い物」(50.4%)も半数を超える。このほか、「ゴミ出し」(32.6%)がほぼ3人に1人、「趣味などの話し相手」(24.8%)がほぼ4人に1人となっている。

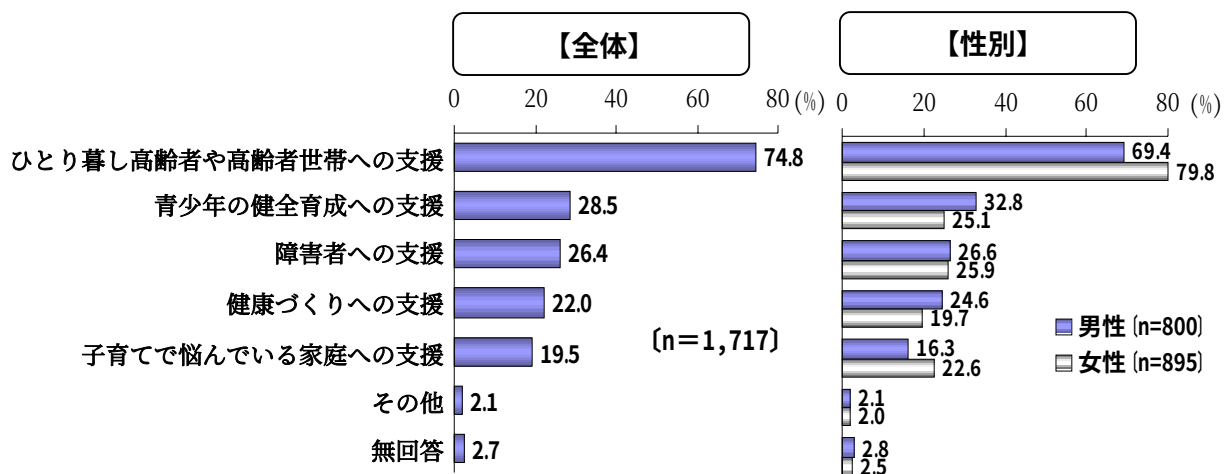
【性別】

「ちょっとした買い物」は女性の方が男性よりも9ポイント高く、「短時間の子どもの預かり」でも女性は6ポイント高い。逆に、「趣味などの話し相手」は男性の方が6ポイント高率である。(図表5-5)

◇「ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」がほぼ4人に3人で突出

問32 あなたは、地域の人たちが協力して取り組んでいくことが必要な問題はどれだと思いますか。
(○は2つまで)

<図表5-6> 地域で協力して取り組む必要がある問題（複数回答）



地域で協力して取り組む必要がある問題としては、「ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」（74.8%）がほぼ4人に3人で突出している。これに続く、「青少年の健全育成への支援」（28.5%）と「障害者への支援」（26.4%）は2割台後半である。

【性別】

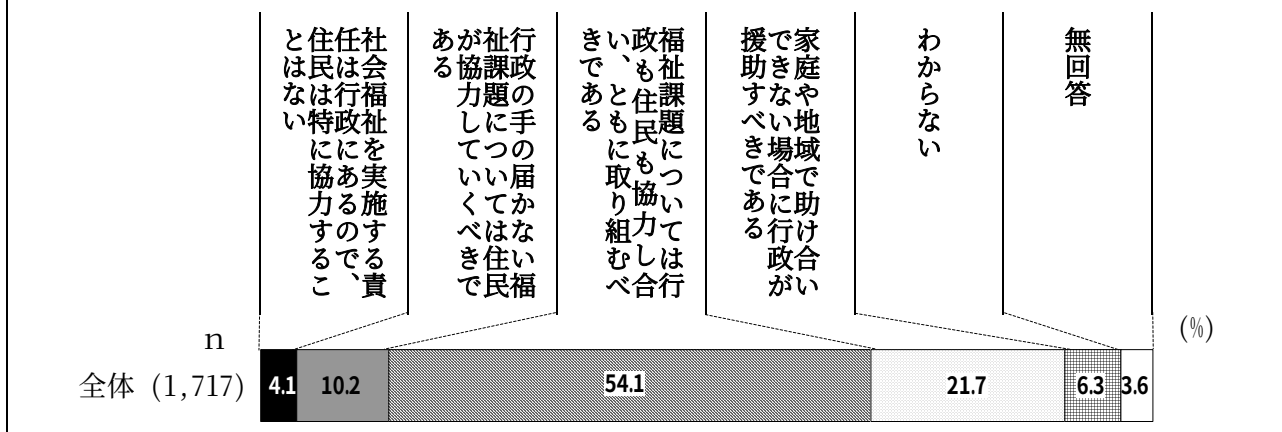
「ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯への支援」は女性の方が男性よりも10ポイント高くなっている。また、女性は「子育てで悩んでいる家庭への支援」でも6ポイント高率である。逆に、男性が上回るものには、「青少年の健全育成への支援」の8ポイント、「健康づくりへの支援」の5ポイント差などがある。（図表5-6）

5-6 社会福祉サービス充実のための行政との関係

◇「福祉課題については行政も住民も協力し合いとにも取り組むべき」が半数を超える

問33 社会福祉サービスを充実させていくうえで、行政と地域住民の関係についてのあなたの考えに最も近いのはどれですか。(○は1つだけ)

<図表5-7> 社会福祉サービス充実のための行政との関係



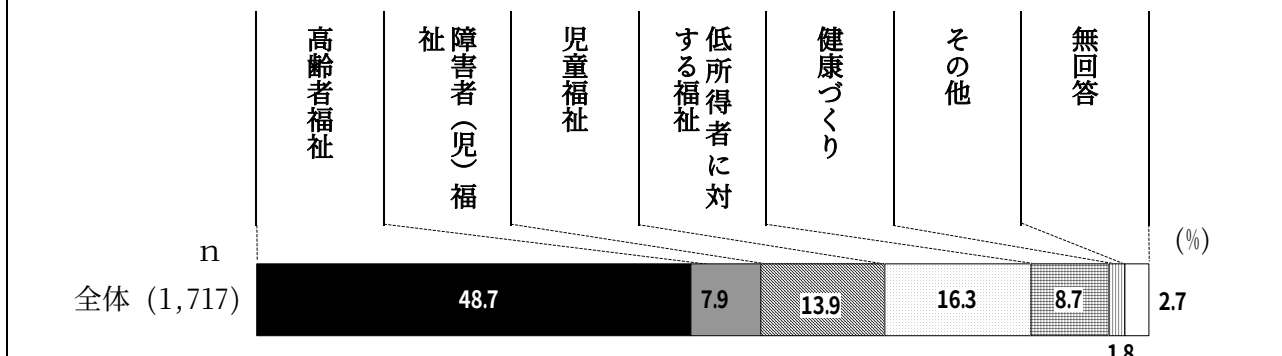
社会福祉サービス充実のための行政との関係を聞いたところ、「福祉課題については行政も住民も協力し合い、ともに取り組むべきである」(54.1%)が過半数を占め最も高くなっている。これに続くのは、「家庭や地域で助け合いできない場合に行政が援助すべきである」(21.7%)で2割強である。また、「行政の手の届かない福祉課題については住民が協力していくべきである」(10.2%)が1割強となっている。(図表5-7)

5-7 今後最も重視していくことが望ましい福祉分野

◇「高齢者福祉」がほぼ半数で最も高い

問34 限られた財源のなかで今後、最も重視していくことが望ましいと思う福祉分野はどれですか。(○は1つだけ)

<図表5-8> 今後最も重視していくことが望ましい福祉分野

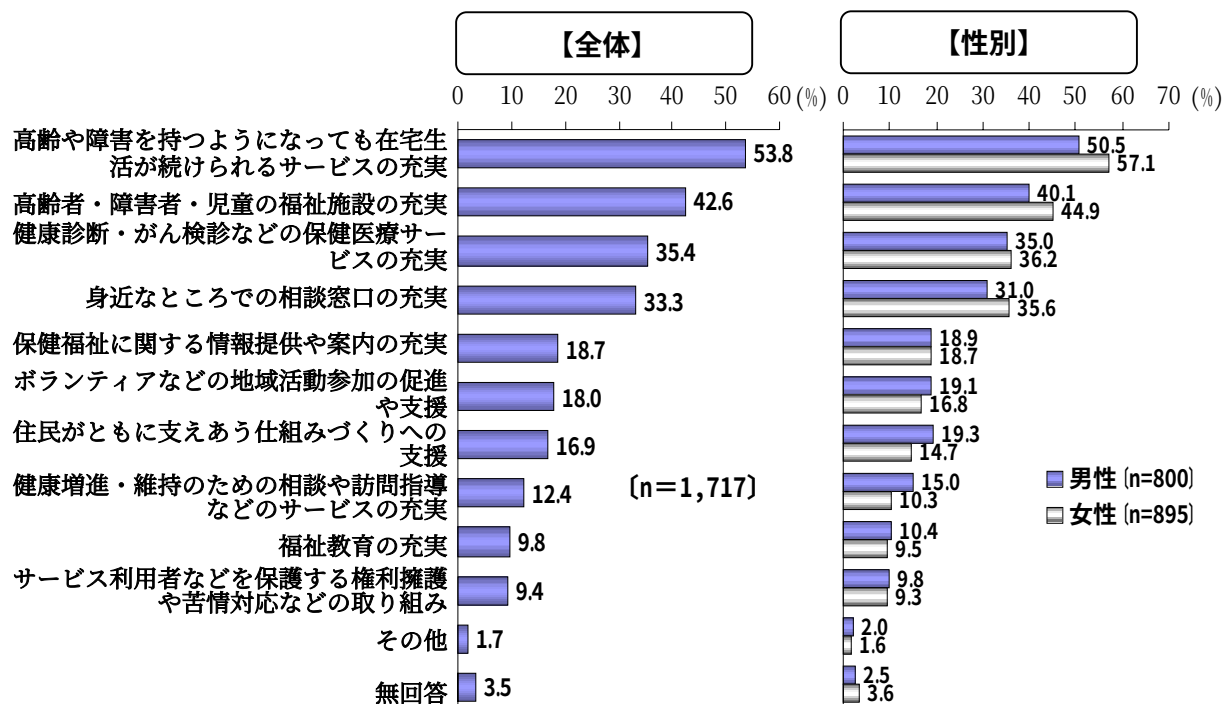


今後最も重視していくことが望ましい福祉分野としては、「高齢者福祉」(48.7%)がほぼ半数で最も高く、続く「低所得者に対する福祉」(16.3%)と「児童福祉」(13.9%)が1割台半ば前後となっている。(図表5-8)

◇「高齢や障害を持つようになって在宅生活が続けられるサービスの充実」が半数を超えトップ

問35 市が取り組むべき具体的な保健・福祉施策として、どれを優先して充実すべきだと思いますか。
(○は3つまで)

＜図表5-9＞市が優先して取り組むべき保健・福祉施策（複数回答）



市が優先して取り組むべき保健・福祉施策としては、「高齢や障害を持つようになって在宅生活が続けられるサービスの充実」（53.8%）が半数を超え最も高く、「高齢者・障害者・児童の福祉施設の充実」（42.6%）が4割を超え続く。以下、「健康診断・がん検診などの保健医療サービスの充実」（35.4%）、「身近なところでの相談窓口の充実」（33.3%）などが続き、上位4項目が目立つ。

【性別】

男性の方が女性よりも高いものには、「住民がともに支えあう仕組みづくりへの支援」と「健康増進・維持のための相談や訪問指導などのサービスの充実」の5ポイント差などがある。逆に、女性が上回るのは、「高齢や障害を持つようになって在宅生活が続けられるサービスの充実」の7ポイント、「高齢者・障害者・児童の福祉施設の充実」と「身近なところでの相談窓口の充実」の5ポイントなどである。（図表5-9）

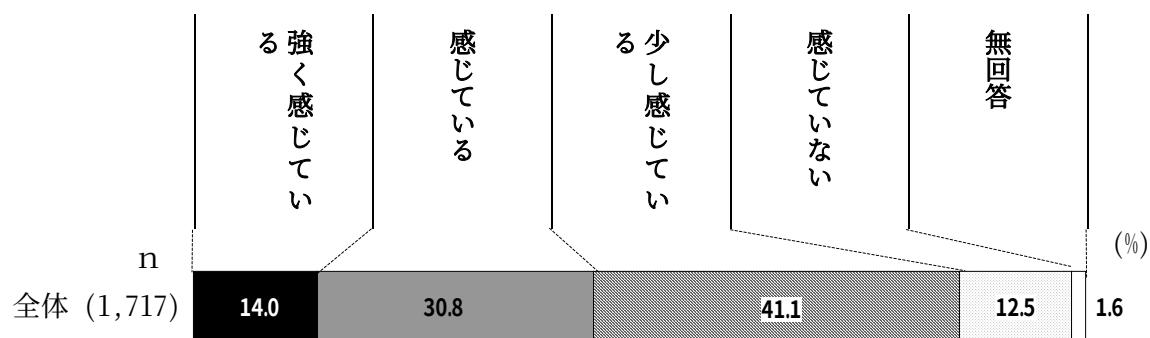
(2) 健康づくり

5-9 日頃のストレスの有無

◇《感じている》が8割台半ばを超える

問36 あなたは、日頃ストレスを感じていますか。(○は1つだけ)

＜図表5-10＞日頃のストレスの有無

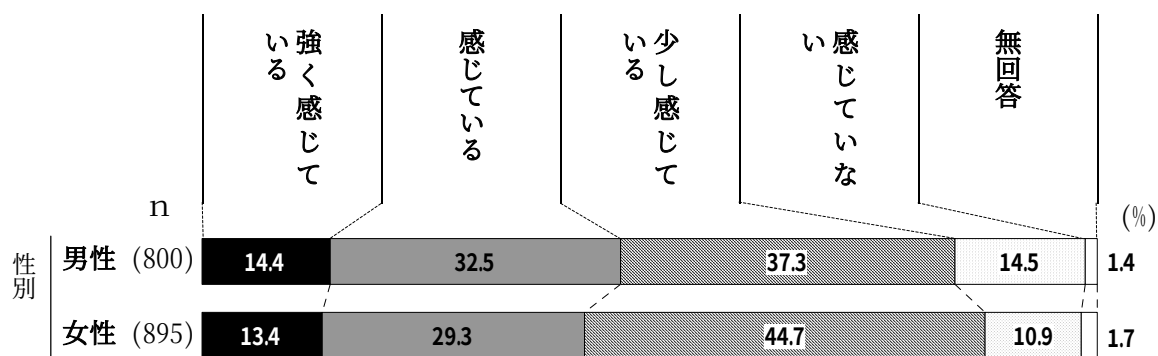


日頃のストレスについては、「強く感じている」(14.0%)、「感じている」(30.8%)、「少し感じている」(41.1%)とストレスの程度が低くなるほど比率が高くなっている。これら3項目を合算すると、《感じている》(85.9%)は8割台半ばを超える。程度の差こそあれ、多数の人が何らかのストレスを感じていることが分かる。逆に、「感じていない」(12.5%)は1割強である。(図表5-10)

【性別】

「強く感じている」と「感じている」は男性の方が女性よりも若干高いが、「少し感じている」は女性の方が7ポイント高くなっている。(図表5-11)

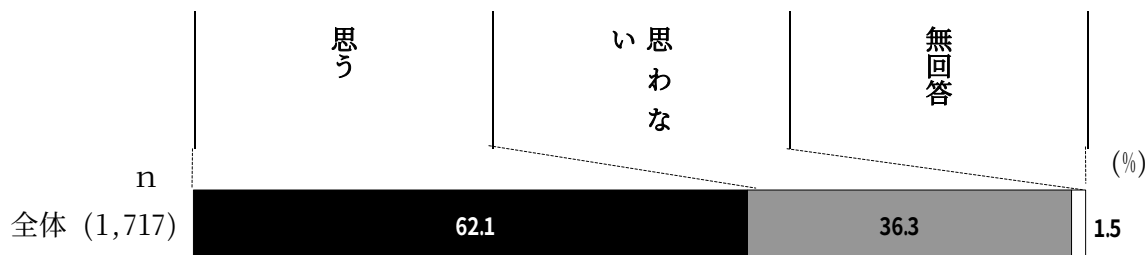
＜図表5-11＞性別



◇健康であると「思う」が6割強で、「思わない」を上回る

問37 あなたは、自分が健康であると思いますか。(○は1つだけ)

<図表5-12> 自分の健康状態

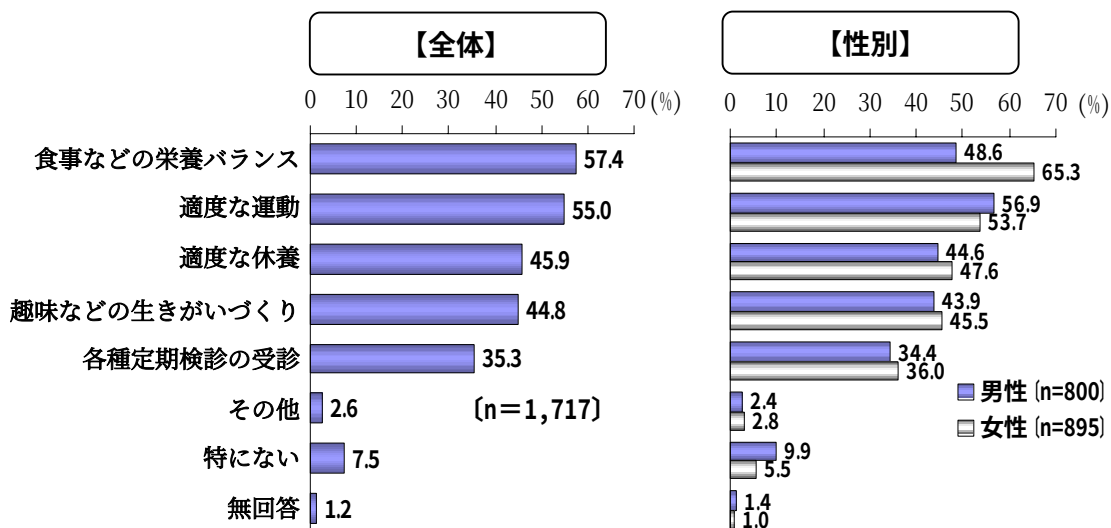


自分が健康であると「思う」(62.1%)は6割を超え、「思わない」(36.3%)を上回っている。(図表5-12)

◇「食事などの栄養バランス」と「適度な運動」が半数を超え上位2項目

問38 あなたが健康の維持・増進のために、自ら心がけていることはどれですか。(○はいくつでも)

<図表5-13> 健康維持・増進のために自ら心がけていること(複数回答)



健康維持・増進のために自ら心がけていることとしては、「食事などの栄養バランス」(57.4%)と「適度な運動」(55.0%)の上位2項目が半数を超え高くなっている。次いで、「適度な休養」(45.9%)と「趣味などの生きがいづくり」(44.8%)が4割台半ば前後である。なお、「特になし」(7.5%)との回答が、少数ながらある。

【性別】

最も差が目立つのは、「食事などの栄養バランス」で女性の方が男性よりも17ポイント上回っている。(図表5-13)